

研究だより

福山市立坪生小学校
2020年(令和2年)
11月
NO. 6 研究部
文責: 研究主任

11月19日(木) 校区研究授業まとめ

本年度初めて他校の先生方に参観して頂く研究授業でした。他校の先生方と話をすることで各校での主体的な学びの取組状況を知り、坪生が進めている授業のスタイルについて、改めて考えることができたと思います。子どもたちの学びを保障するために、中学校との円滑な接続は、必要不可欠です。今後も、他校とも連携しながら子ども主体の学びを進めていけたらと思います。

授業参観の視点 **1** 主体的な子どもの様子や活動
2 主体的な授業づくりのための教師の関わり方

【1年生 算数科「ひきざん」】 山本学級

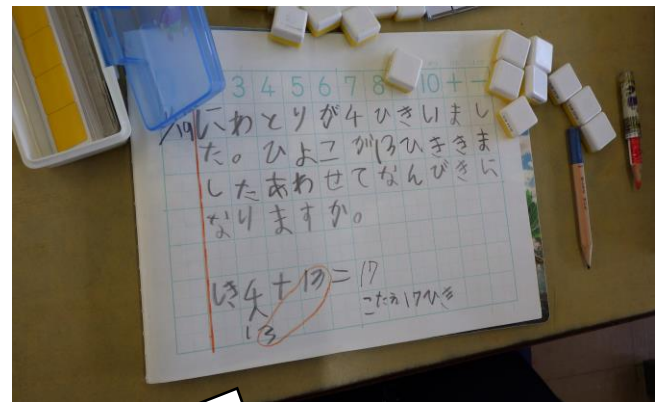
1

- ・挿絵を見て「問題を作りたい!」「もう作る!」「先生、何個も作る?」と意欲的だった。
- ・挿絵からたし算、ひき算の問題を、子どもが自由に選んで、考えて作っていた。
(時間が十分とっており、一人一問は作れていたし、複数問題を作っていた。)
- ・いろいろなパターンの問題が作れていた。(求残、求差、求補など)
- ・問題を交流する場面でも「言いたい、言いたい」と意欲的だった。



2

- ・考える時間を十分とっており、机間指導することで、個別に対応できていた。
- ・問題を交流した際、切り返すことで、単位の間違いに気づかせたり、正しい答えに導いたりすることができていた。
- ・意図的な指名をすることで、多様な問題を提示し、みんなで考えることができた。
- ・ノートを拡大投影機で見せることで、子どもたちの意欲も増し、視覚的にも共有できた。



自分の作った問題とちがう問題・・・
だからこそ、友だちの考えを聴きたい!

【2年生 算数科「かけ算（1）」】小野学級

学習計画は、
進めながら子どもたちの活動に
よって変わっていく！

①

- 先の課題へのチャレンジ（ $0 \times 0 \times 2$ 、 14×3 、 $5 \times 5 \times 5 \times 5$ など）
- グループ内での助け合いがあり活動がスムーズに進んでいった。
- 一人一人が今何をしないといけないのかがきちんと把握できているので意欲的に活動していた。
- 自分のやってみみたいことでグループがわかれていて楽しく活動できていた。
- 子どもが自らルールを決めたり考えたりしながら活動の中に九九が入り自然に覚えられるようになっていた。楽しみながら学習できることは九九が苦手な子も意欲的に参加することができるかもしれない。

学習計画	時間	内容
1	20分	20分
2	30分	30分
3	40分	40分
4	50分	50分
5	60分	60分
6	70分	70分
7	80分	80分
8	90分	90分
9	100分	100分
10	110分	110分
11	120分	120分
12	130分	130分
13	140分	140分
14	150分	150分
15	160分	160分
16	170分	170分
17	180分	180分
18	190分	190分
19	200分	200分
20	210分	210分
21	220分	220分
22	230分	230分

②

- 単元構想をしっかり行い単元を見通した上で、児童と単元計画をたてることで児童が単元の流れがつかめている。そのような授業を構成している。
- 視覚的に振り返ることができる。（掲示）
- 児童に任せるところと教師が抑えるところが的確。
- 児童のつばやきをひろい全体で共有していく。
- 教師は、教える姿勢ではなく、常に子どもが困っていることはないかという視点、子どもが作っているもの考えていることに気を配り、子どもの学ぶ姿を見ている。



実際にひとりひとりが
具体物を使うことで
発見がある！→共有したい！

【3年生 算数科「円と球」】小田学級

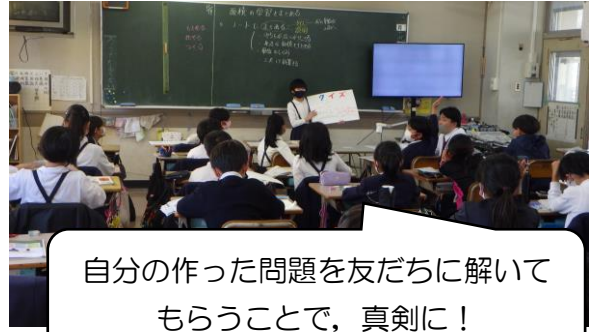


- ① • 粘土を使うことで、実際に球の形を手元で切ることができ、切り口についてより考えることができていた。
- 中心・半径・直径の言葉が児童から何度も出ていて、前時までに円の定義をしっかり抑えられているのが伝わってきた。
- ノート等を開いていなくても、よく発言している生徒もいた。
- 具体物を使って操作をしながらそれぞれが考えていた。

②

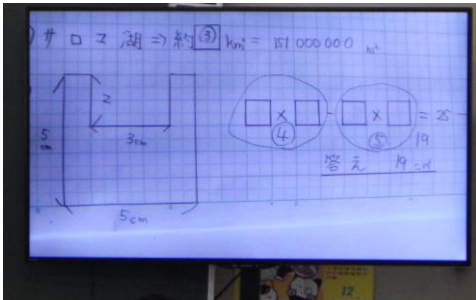
- 様々な形のものと球を比較することで、球の理解がより深まっていた。
- 教師から発問を提示している感じだったため、児童の発言から考えたり活動にうつったりするとより児童の思考の流れに沿うと思った。
- 発言を拾ってよく全体に返していた。
- 発問の仕方や支援を考えることが重要だとわかった。

【4年生 算数科「広さを表そう」】井上学級



1

- ・前時の活動をもとに「その子の力」「その個の定着の度合い」に合わせたまとめに取り組むことができていた。
- ・「なんでそうなるのかな」というつぶやきも出ていた。
- ・自分で問題を作るという場面は子どもがしっかり考えている活動であった。
- ・出題方法や面積でも単純に計算だけでなく単位などどこで着目させるかそれぞれが考えていた。
- ・興味・関心のある場所をそれぞれが考え、実際に調べていた。



2

・子どもの質問がでにくく教師が質問をうながすような発言をしていた。

- ・何をしたいかわからない児童へ声掛けをしていた。
- ・児童が意見を出しやすいように声掛け。
- ・クイズを作って終わりではなく、その後どんな方法でといたか何を使った学習か声掛けをし、意識させていた。

【5年生 算数科「正多角形と円」】木村学級

1

- ・子どもから、「みんながかけられるようになる」との意見がでていた。→みんなで学習することが定着している。
- ・正多角形からさらに発展して作図していた。
- ・自分たちでグループに分かれ、教え合いをしていた。
- ・自ら学び、お互いの学びの交流の場ができている。学級内で、友達ができたと喜びあっている。
- ・全員がかけられるようになるのめあてのもと、苦手な子のところに分かった子が率先して教えにいらっていた。



2

- ・授業の準備を工夫していた。(円を描いたプリントの準備)
- ・「全員がかけられるようになる」という子どもが主体的に取り組めるめあての設定。
- ・めあてを決めたあと、児童が自分で動くように支援していく。
- ・教師は、児童に任せる時は任せ、支援が必要なところに支援する。

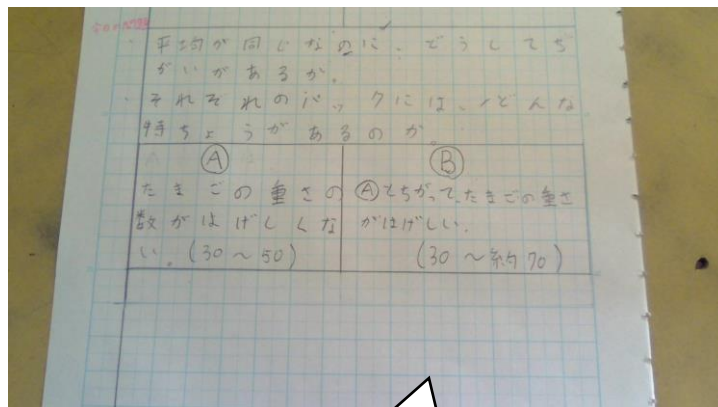


自分が分かったから、
友だちに伝えたい！
友だちだから、聴きやすい！

【6年生 算数科「資料の特ちょうを調べよう」】村上学級

①

- ・「当たり前じゃん！」と思っていたのに、実際の数値を見るうちに「ん？」となっている姿
- ・初めに感じた「？」を、考えたり交流したりしている姿
- ・課題をイメージして、多様な発言をしている姿
- ・じっくり考える子も含め、自分のスタイルで学習している姿
- ・課題を解決しようと意欲的に交流している姿
- ・全体に意見を伝えたり、教え合ったりしている姿



日常生活の中から課題を提示することで学習に意欲的に！

②

- ・身近な物（卵）を用いた題材作り
- ・数値（卵の重さ）を提示する順番の工夫
- ・平均は一緒なのに「なぜ？」と、児童が自然に疑問をもてるような発問
- ・児童のつぶやきをひろって広め、反応をみて働きかけていた。

【松田学級（知的2）生活単元「お買い物しよう」】

①

- ・お金のデザインをどうするか。
- ・だれに教えるか、だれに教わるか。
- ・上の学年が下の学年にアドバイス
- ・40分作業に集中
- ・異学年、たてわりでの関わり大切→上と下の学年の関係ができていると中学校につながる。

異学年交流で学びを深める。
 周りを見て、困っている子に自然と関わる姿も見られます。



2

- 「もって帰ってはだめ。」と先生が毅然とした態度だった。
- 飛び出した子に対しておしつけないことで、周りの様子を見て自分から動いた。→1時間頑張っていて楽しかったという思いになって帰ることができたのではないかと思う。
- ピカチュウのしっぽ→やる気アップ
- 高(中)学年を褒めてクラスを引っ張らせる。
- 自分たちで決めたから頑張れる。
- できるだけ教師がしゃべることを少なくする関わり。
- 個に応じた準備物の用意を教師がしていた。

授業をしてくださった先生方、ありがとうございました！

子ども同士の関わりの中に、少しずつ変化が見られてきたのかなと思います。自分だけが満足するのではなく、周りを見て自然と友達に教えにいく姿もあり、自分の学びを追究する姿もあり、そこから友達へ発信する姿があり、「学びが楽しい!」「もっと学びたい!」という子どもたちの姿は、主体的な学びの成果だと感じました。私たち教師の役割は、「勉強を教えること」でなく、子どもたちが考える場、学び合う場を設定しながら、「学びの楽しさを教えていくこと」だと思います。先生方の授業から、自分のクラスで取り入れられることを一つでも見つけていきましょう！

先生方の感想（明日から生かしていきたいこと）抜粋

- 一人一人を見ることの大切さ。時間の中でだれができていて、誰ができていないかをある程度把握する大切さ。
- 先の課題へのチャレンジをしている児童の考えを取り上げていく。
- 児童が何を考えているのか一人一人の様子を見て、臨機応変に授業を展開していくことが大切だと思った。
- 学習したことを使って子どもたちで問題をつくる活動を行い、子ども同士で解説しあう学習。子どもたちの「やりたい」「言いたい」を刺激する仕掛けや声掛け。
- 楽しただけで終わらない授業づくり
（“おもしろさ”の中に自分のがんばりや成長を感じられる1時間）
- 子どもの様子を見て、つぶやきを大切にすること。
- 一人一人が何か伝えることができたり、書くことができたりする状況を模索すること。
- 教師が子どもの考えを粘り強く待つ。
- 話し合いの中から、意見をピックアップし、全体共有していく



次回の研究授業は、3学期です。2月4日で、本年度最後の研究授業です。学年で、授業提案する人を決めておいてください。